

〈カントライは今年で 50 周年を迎えます〉  
**エヴァンゲリウム・カントライ**  
*Evangeliums-Kantorei*  祈りに支えられて 50 周年

〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭 5529-8 シャルマンコーポ 404 小山方 Tel. 070-2834-4304  
 郵便振替 00100-3-21060

「聖書が成就するために」

石川新

それから、イエスはすべてのことが完了したのを知ると、聖書が成就するために、  
 「わたしは渇く」と言われた。 ヨハネの福音書19章28節

エヴァンゲリウム・カントライと言えばバッハのヨハネ受難曲を思い起こします。3月にあるオンライン、ヨハネ受難曲コンサートを期待しつつ、再び会場に足を運び、直接聴く時を待ち望んでいます。さて、苦しみの極みの中にあつて発せられたイエスのことばについて考えてみましょう。

十字架上でイエスは、第五のことば「わたしは渇く」と言われました。本来イエスは、生ける水を与えるお方です。ではイエスがなぜ「渇く」と言われたのか。十字架刑は非常に喉が渇くと言われていますが、それだけではないでしょう。まず詩篇22篇15節の成就であると思われまふ。

「私の力は 土器のかげらのように乾ききり舌は上あごに貼り付いています。死のちりの上に あなたは私を置かれます。」

22篇と言えば1節は、十字架上の第四のことば「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」です。ここから考えられることは、イエスは詩篇22篇1節のみを発したのではなく、詩篇22篇全体を口ずさんだということです。22篇18節「彼らは私の衣服を分け合い 私の衣をくじ引きにします。」もその通りになりました。19-20節に神に助けを求める祈りのことばがあり、24節には「助けを叫び求めたとき 聞いてくださった。」という告白

に至ります。主イエスは、親しい父なる神との断絶の中でも、暗唱していた詩篇をもって祈りと賛美をささげておられたのでしよう。



冒頭聖句の「すべてのことが完了したのを知る」は、主ご自身の祈りが聞かれたことの確信と、主への賛美があつてこそその表現と思われまふ。主の渇きの苦しみと、よみがえらせてくださる父への信頼によって、私たちの救い、贖いが完了したのです。この後、過ぎ越しの子羊の血を思い起こすヒソブの枝で、イエスの口もとに酸いぶどう酒が差し出されました。「彼らは私の食べ物の代わりに 毒を与え 私が渇いたときには酔を飲ませました。」(詩篇69篇21節)のことばも成就しました。

旧約の預言に示された父なる神のみこころを、完全に成し遂げられたイエス。福音書と合わせて旧約のみことばも思い巡らしましょう。主イエスのしもべとして私たちも、みこころにかなう賛美を捧げつつ、福音を伝え続けまふ。

「彼らは来て 生まれてくる民に主の義を告げ知らせます。主が義を行われたからです。」  
 詩篇22篇最終節

(追浜聖書教会 牧師)

聖書 新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会

## バッハ《ヨハネ受難曲》

斉藤律子

今年のイースターは4月9日、その三日前4月7日が聖金曜日となります。新しい年を迎え早くもふた月が過ぎ、2月22日から受難節となります。カントライは長年、聖金曜日近くには必ずバッハの『ヨハネ受難曲』を賛美してきました。聖金曜日のコンサートは様々な教会で、日本語による朗読と合唱とソロのスタイルで演奏してきました。朗読は会場教会の方々にご協力をお願いして参加して頂いたことも、感謝とともに忘れられない思い出となっています。大きなホールや地方の大きな教会ではオーケストラと共に全曲演奏したことも何度かありました。カントライにとってヨハネ受難曲は切り離せないものと言っても過言ではないのではないのでしょうか。

なぜマタイ受難曲ではなくヨハネ受難曲だったのでしょうか。一つは規模的なものでしょう。マタイ受難曲はオーケストラも倍の二重オーケストラ、合唱も倍の二重合唱となっており、カントライの団員数や予算では難しいということでしょう。しかし、指揮者の岳藤先生はこのようにつぶやかれました。「ヨハネのほうが聖書的でみことばに密接しているからね。」と。

マタイ受難曲は1727年ライブツィヒ聖トーマス初演とも言われていますが定かではありません。ヨハネ受難曲は1724年初演とも言われていますが、それはライブツィヒのカントールとなった初年に当たります。2つの受難曲には共通点もありますが、印象からしてだいぶ違うのも確かです。それは福音書の違いによるところが大きいと私は思います。

前回お読みくださった方は記憶されているかと思いますが、バッハのクリスマスの作品における修辞法とバロック絵画の〈スクロ・キアーロ〉の影響を中心に持論を書かせていただきました。今回はヨハネ受難曲中心に、ルネサンス～バロック期に絵画上流行した〈マニエリスム様式〉との関連性を演奏者の立場から少し述べさせていただきたいと思います。これは、前回同様、演奏しているの実感から記しているもので、そのことを学術的に証明している文献の裏付けのあるものではありません。

そもそもマニエリスムとは、マンネリズムの語源になった語で、マニエリ＝技法を意味しています。1520年頃イタリアルネサンス後期に生まれた美術界の流行で、それぞれの画家がそれぞれのスタイルのマニエラを持っていたわけですが、とりわけミケランジェロのマニエラは、その後のマニエリスムの中心になっていき、バッハの中にその共通点を感じるのです。例えば有名なミケランジェロのシスティナ礼拝堂の天井画を思い出してみてください。隙間のないほどの人物の数、筋肉質で力強い神の姿、天上人も天使も、神の指の先に創造されたアダムも、また地獄へと落とされる人々も同じく筋肉質で体と視線の方向、手足の方向は捻じ曲げられて、それぞれの状況はドラマチックに強調されています。デフォルメ、くどいばかりの細かさ、数の強調、繰り返し、不自然さ等はグロテスクな印象さえ覚えます。マニエリスムの代表的な宗教画家として有名なエル・グレコの黙示録は引き伸ばされひねられ、もはや近代絵画のようです。とても16世紀から17世紀の作品とは思えません。

具体的にどんな形でマニエリスム的な技法はバッハ作品に駆使されているのでしょうか。（譜面1→1～7小節）ヨハネ受難曲一曲めの冒頭です。ご存知のようにバッハの作品には、どこにと言えないほど多くの十字架のモチーフが出てきます。とりわけ受難曲は十字架の音形と十字架の苦しみの和声でできていると言っても過言ではありません。①フルートとオーボエ2対の2重奏はキリストを意味しており、2つは（十字架のモチーフの極端な引き伸ばし）激しくぶつかり、よれるように絡まりつつ不協和音を奏でながら進みます。半音階の下降上行を繰り返しつつ、十字架の壮絶な苦しみを表しつつ合唱の〈主よ、主よ、主よ〉というキリストを崇める合唱の叫びへと続きます。②嘆きとゴルゴダへの歩みを思わせる重々しい16分音符。③ビオラの嘆き。④通奏低音の八分音符は重々しく4つずつに分かれ、苦悩に胸を叩く音型です。⑤通奏低音の一拍目、3拍目は四分音符が置かれていてドンドンと鈍い響きを加えられ、イエス様を打つムチの音と言われています。ト短調は地上に來られたキリストの十字架の苦しみの調です。

合唱は暴徒化してゆく祭司長や律法学者率いる兵士や民衆の叫び〈十字架につけろ！〉等をマニエリスム的なグロテスクで細かい手法を駆使して歌われます。その合間にコラール讃美歌が信仰者の告白として歌われるとき、暫しの魂の共感を感じることができます。

イエス様が十字架の上で亡くなられたあと、ソプラノがアリアで『心乱れ、涙あふれ』を歌います（譜面 2→13 小節～20 小節）フルートとオーボエの 2 重のオブリガートは、留まるところなく流れ落ちる涙を演奏します。このソプラノの歌い出しのメロディー 19、20 小節は減七の和音を下降するのですが、バッハの作品の中でも飛び抜けて奇妙で痛々しい音です。聞いているとあまり感じられませんが、ぜひ一度声に出して歌ってみてください。

こうしてバッハは差し迫るキリストの十字架への道のりと十字架上の死、その無惨な姿に表される神の私達への哀れみと愛を、物語としてでなく、みことばの成就として、現実として描こうと力の限りを尽くしてやり遂げています。演奏するとき、バッハの駆使した修辞法、ねじれた半音階、減音程への下降、増音程への上昇、モチーフの繰り返しや引き伸ばしには、もの凄い体力やエネルギーと気迫が必要になるのです。演奏者にはその音楽の美しさを楽しむ余裕など全くありません。しかし、だからこそヨハネ福音書 18、19 章の中に、その場にいた、私は見たのだという実感を味わい、十字架の栄光を仰ぎ、最終曲のコラールに主の復活の希望の確信を祈ることができます。どうでしょう。カントライと共にヨハネ受難曲を演奏いたしませんか。

今年リモートながら 3 年ぶりにヨハネ受難曲の朗読とコラール（賛美歌）のみの演奏会を持つことができます。皆様と共にキリストの十字架の栄光を仰ぎ、イースターをお迎えいたしましう。

### 譜面 1

フルートI  
オーボエI

フルートII  
オーボエII

ヴァイオリンI

ヴァイオリンII

ヴィオラ

ファゴット  
チェロ

通奏低音  
コントラバス

譜面 2

《バッハの受難のコラール前奏曲について》

矢吹綾子

バッハの「オルガン小曲集」の中に、“おお人よ、汝の大なる罪を嘆け (BWV622)”、“罪なき神の小羊よ (BWV618)”という受難節のコラール前奏曲が収められています。

“おお人よ、汝の大なる罪を嘆け”は、バッハの有名なオルガン曲の一つで、元になるコラール(譜例1)の歌詞の内容を深く考察し、音楽言語により表現された曲とされています。コラールの旋律は、最上声部に置かれ、曲全体に多くのトリルが用いられ、装飾が施されています(譜例2)。これは、流れ落ちる涙を表しています。ただ、曲の終わりの部分に、そのような装飾の全くない無装飾のコラール旋律が二度現れます。その部分のバスは半音階で上行し、内声はひきずるような掛留進行が用いられています(譜例3-①②、譜例4-①)。この部分の歌詞には、どちらも「十字架」ということばがあり、私たちの罪の重荷を背負って歩む、主イエスの足取りを表しています。また、終結部には、バッハ自身が、きわめてゆっくりという意味の「アダージッシモ」と楽譜に書いています(譜例4-②)。これは、「長く十字架につけられ給わん」という歌詞の「長く」ということを表現するためであると言われています。そして、普通はロ長調の和音として書かれますが、変ハ長調(ハ長調の全部の音に半音下げるbを付けた調)という、最も低い調に転調します(譜例4-③)。これは、ピリピ人への手紙2章6～8節に記されている、神の御子であられるイエス・キリストが、ご自身を最も低くされ、十字架の死にまで従われたということを表しています。

“罪なき神の小羊”の元になるコラールは、日本の教会でも馴染みのある讃美歌の一つです(譜例5【讃美歌257番】)。この曲は、コラールの旋律が、ペダルで弾かれるテノールと、それより2拍後から始まる、5度高い音のアルトに置かれ、カノンになっています(譜例6-①)。これは、御子による神の御旨の成就を表しています。また、他の二つの声部には、溜息のモチーフが終始用いられています(譜例6-②)。これは、キリストの悲嘆を表しています。

これらのオルガン曲は、主イエスの十字架の苦しみと愛を心に感じさせ、十字架の贖いを深く覚えさせてくれます。

譜例 1



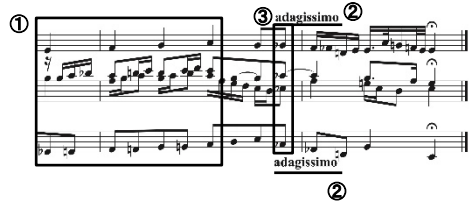
譜例 2



譜例 3



譜例 4



譜例 5



譜例 6



...2022年 12月クリスマスオンラインコンサート報告...

今回も多くの方々にご来場いただきましてありがとうございました。

初めてオルガン演奏が入ったのクリスマスプログラムでした。「じっくりとクリスマスを思い巡らすことができた」「みことばの歌から主イエス様の降誕を知ることができた」など嬉しいご感想をたくさんいただきました。次回は、共に主の受難を覚える時となりますように。



## ♪2023年 3月 オンラインコンサートのご案内

- 日時 : 3月24日(金)19:30-20:30(予定)ゲスト入室19:20
- 形態 : Zoomクラウドミーティングによる配信
- 主なプログラム: J.S. バッハ 「ヨハネ受難曲」  
聖書朗読とコラール、ショートメッセージ

○視聴方法 : カントライホームページ(掲載中)または、お知り合いの団員からお申込みください。申し込みは当日午前中まで承ります。皆様のお越しをお待ちしています。

事務局から

### ☆ 活動予定

3月24日(金) ヨハネ受難曲オンラインコンサート

6月10日(土) 前橋キリスト教会演奏会

\* 今後の状況によって変更の可能性がありますので、ご確認をお願いいたします。

### ☆ 献金(2022年12月-2023年2月) ( )内の数字は件数です。

尊い献げものをありがとうございました。感謝をもってご報告いたします。(敬称略)

#### <賛助会>

(教会) 前橋キリスト教会(3)、木場深川キリスト教会、拝島バプテスト教会  
グレースコミュニティ、北栄キリスト教会(1)、東京聖書教会(3)  
川越聖書教会(2)、長津田キリスト教会、浦和福音自由教会(3)  
四街道教会、宇都宮聖書バプテスト教会

(個人) 高橋和江、石川澄、飯島勅・千雍子(3)、高田眞三、矢吹徹、田中玲子  
中山明美、高張美恵子(3)、潮田徹、小林伸二

#### <献金>

(教会) 九十九里教会、湘南ライフタウンキリスト教会(3)

(個人) 団員

編集後記:長い間対面での練習ができませんでしたが、再開することができました。制限はありますが、大きな喜びがあります。演奏会と50周年記念事業のために、お祈りをよろしく願います。(事務局)